

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期			
科目名	体育	授業形態	講義	単位数	2 単位			
担当教員	江口 茜	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	スポーツジム勤務(アスリート指導)5年、高校部活動(陸上競技)指導5年、他							
授業のねらい (到達目標)	体育を指導する上での基本的な知識・技能を身に付け、各領域の教材づくりと指導のポイントについて理解する							
授業概要	小学校教育課程における体育授業の基本的考え方や運動指導に必要な基本的知識を学修し、各領域の特性を踏まえた実技を行う。							
テキスト	文部科学省「小学校学習指導要領 体育編」東洋館出版							
授業計画	第1回	学指導要領に示される目標について						
	第2回	体育科の領域構成について						
	第3回	体育科教育の重要性について						
	第4回	新体力テストについて						
	第5回	新体力テストと子どもの体力との関連性について						
	第6回	体つくり運動の内容指導方法について						
	第7回	小学校体育における「ボール運動」の指導方法について①						
	第8回	小学校体育における「ボール運動」の指導方法について②						
	第9回	小学校体育における「陸上競技」の指導方法について①						
	第10回	小学校体育における「陸上競技」の指導方法について②						
	第11回	器械運動領域における段階的な指導について						
	第12回	小学校体育における「器械運動」の指導方法について①						
	第13回	小学校体育における「器械運動」の指導方法について②						
	第14回	小学校体育における「表現運動」「ダンス」の指導方法について						
	第15回	小学校体育における保健学習の指導について						
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠		
			50%	25%	10%	15%		
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期			
科目名	体育科指導法	授業形態	講義	単位数	2 単位			
担当教員	江口 茜	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	スポーツジム勤務(アスリート指導)5年、高校部活動(陸上競技)指導5年、他							
授業のねらい (到達目標)	体育を指導する上での基本的な知識・技能を身につけ、各領域の教材づくりと指導のポイントについて学修する							
授業概要	体育科の特性及び目標を整理し、具体的な事例をもとによりよい体育授業について学修する。							
テキスト	高橋健夫「新版 体育科教育学入門」大修館書店							
授業計画	第1回	体育科の特性及び目標						
	第2回	体育の領域と単元構成						
	第3回	体つくり運動領域①						
	第4回	体つくり運動領域②						
	第5回	器械運動領域①						
	第6回	器械運動領域②						
	第7回	表現運動領域①						
	第8回	表現運動領域②						
	第9回	陸上運動領域①						
	第10回	陸上運動領域②						
	第11回	ボール運動領域①						
	第12回	ボール運動領域②						
	第13回	学習指導案と模擬授業						
	第14回	模擬授業と評価基準						
	第15回	よりよい体育授業について						
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期			
科目名	文章表現Ⅲ	授業形態	講義	単位数	4 単位			
担当教員	仲川 容子	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし、現場で求められる保育者の資質に基づいて実践的な指導を行う。							
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> 大学生活に必要な日本語表現の知識、分かりやすく正しい日本語を書くためのポイントを学ぶ。 実際にレポートを書く際に必要となる文献の検索や課題の設定について学ぶ。 							
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 上記テキストの問題に書き込みながら、日本語表現の基礎となる内容を学習する。 「トレーニング」を解き、「テキストで解答を確認する」、「テキストでポイントを学ぶ」という手順で行う。 							
テキスト	大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編(三省堂)							
授業計画	第1回	アカデミックワードと日常語の違いについて学ぶ。						
	第2回	句読点の打ち方、慣用句、四字熟語についての知識を確認する。						
	第3回	漢字の使い分け・見やすい表記について学ぶ。						
	第4回	基本的な敬語の知識・敬語の使い方、手紙の書き方を学ぶ。						
	第5回	Eメール・あいまいな文について学ぶ。						
	第6回	分かりやすい文章の語順や接続表現の使い方について学ぶ。						
	第7回	文のねじれ・接続表現の使い方、不適切な表現の修正を学ぶ。						
	第8回	「事実」と「意見」の書き分けについて学ぶ。						
	第9回	データの収集方法や解釈について学ぶ。						
	第10回	文献の検索・調査課題の設定の仕方を学ぶ。						
	第11回	レポートや論文の注の付け方、レポートの構成を学ぶ。						
	第12回	参考文献の書き方・引用の方法、体裁・書式について学ぶ。						
	第13回	レポート課題とレポートを書く手順を学ぶ。						
	第14回	調査結果と考察の書き方を学ぶ。						
	第15回	結論と今後の課題の書き方を学ぶ。						
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期			
科目名	教育心理学(初等教育)	授業形態	講義	単位数	2単位			
担当教員	中井 和弥	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	児童養護施設で2年半児童の心理支援に携わった経験に基づき、保育現場で活きる心理学教育を行う。							
授業のねらい (到達目標)	教育心理学における基礎的知識を理解し、概説することができる。教育・保育場面の様々な事象を心理学的に理解し、教育・保育実践に応用することができる。							
授業概要	発達、学習、パーソナリティ、測定・評価のような基礎的知識の修得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに初等教育(幼稚園・小学校)の実践に役立てていくのかを検討する。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。							
テキスト	教育心理学 ルックアラウンド							
授業計画	第1回	教育心理学とは						
	第2回	教育心理学のあゆみ						
	第3回	子どもの発達—遺伝と環境、レディネスの概念—						
	第4回	知能—知能の概念の有効性と限界—						
	第5回	性格(パーソナリティ)—性格の概念と個人差—						
	第6回	学習のメカニズムについて						
	第7回	学ぶ意欲と授業の課程—動機づけとさまざまな授業方法—						
	第8回	学習の評価—教育評価の方法とテスト—						
	第9回	集団としての子ども—教育現場の社会心理学—						
	第10回	子どもの不適応行動1—いじめの問題—						
	第11回	子どもの不適応行動2—不登校、非行などの問題—						
	第12回	子どもの不適応行動3—現代を生きる子ども—						
	第13回	学校カウンセリングの基礎						
	第14回	進路指導と進路の選択						
	第15回	障害のある子どもの理解						
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期			
科目名	教育心理学(中等教育)	授業形態	講義	単位数	2単位			
担当教員	中井 和弥	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	児童養護施設で2年半児童の心理支援に携わった経験に基づき、保育現場で活きる心理学教育を行う。							
授業のねらい (到達目標)	教育心理学における基礎的知識を理解し、概説することができる。教育・保育場面の様々な事象を心理学的に理解し、教育・保育実践に応用することができる。							
授業概要	発達、学習、パーソナリティ、測定・評価のような基礎的知識の修得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに初等教育(幼稚園・小学校)の実践に役立てていくのかを検討する。併せて、現実の教育現場で起っている問題への応用を考える。							
テキスト	教育心理学 ルックアラウンド							
授業計画	第1回	教育心理学とは						
	第2回	教育心理学のあゆみ						
	第3回	子どもの発達—遺伝と環境、レディネスの概念—						
	第4回	知能—知能の概念の有効性と限界—						
	第5回	性格(パーソナリティ)—性格の概念と個人差—						
	第6回	学習のメカニズムについて						
	第7回	学ぶ意欲と授業の課程—動機づけとさまざまな授業方法—						
	第8回	学習の評価—教育評価の方法とテスト—						
	第9回	集団としての子ども—教育現場の社会心理学—						
	第10回	子どもの不適応行動1—いじめの問題—						
	第11回	子どもの不適応行動2—不登校、非行などの問題—						
	第12回	子どもの不適応行動3—現代を生きる子ども—						
	第13回	学校カウンセリングの基礎						
	第14回	進路指導と進路の選択						
	第15回	障害のある子どもの理解						
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末			
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				中間			
			平常	出欠				
			50%	25%	10%			
					15%			

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期				
科目名	家庭支援論	授業形態	講義	単位数	2単位				
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無		<input checked="" type="radio"/>					
実務経験教員の経歴									
児童養護施設での保護者対応、子育て支援の経験から、現代の保護者が抱える育児不安やそれを支える社会資源について、実践的な指導を行う。									
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の意味や基本的機能について理解する。 ・家庭の役割、子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。 ・多様な子育て支援の方法、関係機関との連携について理解する。 								
授業概要	家族の意味(定義)、基本的機能をおさえた上で、子どもの健全な発達や社会の発展のために果たす家庭の役割、子育て家庭を取り巻く社会的状況を学び、家庭支援の必要性を理解する。家庭のニーズに応じた多様な子育て支援の方法、関係機関との連携などについて身近な地域の実態を通して、保育者として可能な支援を考える。								
テキスト	よくわかる家庭支援論								
授業計画	第1回	オリエンテーション							
	第2回	家族援助の対象と役割							
	第3回	子育て家庭の現状、家庭支援の背景							
	第4回	少子化について							
	第5回	家庭支援に関わる法・制度①							
	第6回	家庭支援に関わる法・制度②							
	第7回	家庭支援に関わる機関・専門職							
	第8回	保育者による家庭支援							
	第9回	在宅子育て家庭への支援							
	第10回	特別なニーズを有する家庭への支援							
	第11回	家庭支援の方法としての保育相談支援							
	第12回	家庭への個別的な支援							
	第13回	社会的養護を要する家庭への支援							
	第14回	地域の子育て支援について							
	第15回	まとめ							
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期				
科目名	子どもの食と栄養	授業形態	演習	単位数	2 単位				
担当教員	萱場 佳代	実務経験の有無		○					
実務経験教員の経歴	企業での調乳・離乳食指導、特定保健指導、母親教室、料理教室講師 新潟市 母子保健事業、特定保健指導、学校等での出張授業講師 他								
授業のねらい (到達目標)	子どもの身体の特徴を理解し、小児期に必要な栄養・食生活の重要性と、それぞれの時期に応じた食事の知識を習得し、食育につなげていけるものとする。								
授業概要	基本的な栄養・食生活の知識を学ぶ。 離乳食から幼児期への子どもの発育発達と、それぞれの時期に応じた栄養補給、食事の知識を学ぶ。 食育の重要性を学び、子どもたちへの伝えかたを考える。 実際に調整粉乳・離乳食・幼児食の調理を行い、形態や味を確認する。 乳幼児期における食物アレルギーについて学ぶ。								
テキスト	「新版 子どもの食生活－栄養・職員・保育－」								
授業計画	第1回	栄養に関する基礎知識(五大栄養素の体内での働き)							
	第2回	ビタミン・ミネラルの種類・働き・食品							
	第3回	母乳栄養(初乳・長所・短所・母乳不足)							
	第4回	人工栄養(調整粉乳・フォローアップミルク・特殊ミルク)							
	第5回	離乳の定義、離乳食の進め方と注意点							
	第6回	幼児期の栄養・食生活							
	第7回	間食の必要性と与え方							
	第8回	幼児期の栄養・食生活上の問題と対応							
	第9回	乳幼児期の食物アレルギー							
	第10回	食育の必要性(ねらいと内容)							
	第11回	食育の実践							
	第12回	実習(調乳・離乳食の調理)							
	第13回	実習(幼児食の調理)							
	第14回	実習(間食の調理)							
	第15回	まとめ 期末試験							
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	欠	
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度				50%	25%	10%	15%	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期			
科目名	障害児療育	授業形態	講義	単位数	2単位			
担当教員	星 恵美子	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	障害児・者の入所及び通所施設、障害者グループホーム、地域生活支援センター、放課後保護サービス事業等の知的障害児・者支援で培った、様々な障害や疾病の特性の知識、それに応じた支援方法はもとより、障害観の変化、法律や制度の変遷を踏まえ、利用者主体の支援の意義と実際の支援における視点について、保育実習指導と関連付けながら学ぶ、実践に役立つ授業とする。							
授業のねらい (到達目標)	1、障害児保育の理念及び歴史を理解する。2、様々な障害と援助の留意点を理解する。3、家族支援の意義と援助者の役割を理解する。							
授業概要	障害者が積極的に社会貢献していく「共生社会」の構築にむけ大きな一步を踏み出した今、これから保育士には、その専門性のひとつとして、「障害」の深い理解、子どもたちの全面発達を担う力量が求められる。この授業は障害福祉理念の現在的到達点とその意味について学ぶ。							
テキスト	小林保子、立松英子「保育者のための障害児保育—理論と実践をつなぐー」学術出版							
授業計画	第1回	オリエンテーション						
	第2回	障害の理解 ICIDH、ICF、子どもの最善の利益						
	第3回	日本における障害児教育の歴史						
	第4回	障害のある子どもの暮らしを支える福祉・医療の制度 障害手帳、発達障害者支援法、障害者総合支援法						
	第5回	地域における専門機関との連携 発達支援センター、他職種連携						
	第6回	障害児保育の実際 ①知的障害児・発達障害児への支援						
	第7回	障害児保育の実際 ②肢体不自由児・						
	第8回	障害児保育の実際 ③肢体不自由児への支援						
	第9回	障害児保育の実際 ④重度心身障害児への支援						
	第10回	障害児保育の実際 ⑤視覚障害児への支援						
	第11回	障害児保育の実際 ⑥聴覚障害児への支援						
	第12回	障害児保育の実際 ⑦言語障害児への支援						
	第13回	障害児保育の実際 ⑧病弱・身体虚弱児への支援						
	第14回	障害児保育の実際 ⑨気になる子への支援						
	第15回	効果測定						
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期				
科目名	保育・教育課程論	授業形態	講義	単位数	2 単位				
担当教員	高木 亜紀	実務経験の有無	○						
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭として多くの幼児や保護者と関わった経験、学童保育指導員として小学生の生活や学習に関わった経験、子育てに関する活動(育儿サークル主宰、企業による子どもを対象とした職業体験学習など)をもとに授業を行う。								
授業のねらい (到達目標)	乳幼児保育における長期的な見通し、職員全員の共通認識、計画の重要性や作成方法について理解する。PDCAサイクルについて理解し、自身と園全体の保育の見直しが、保育の質の向上につながることを学ぶ。								
授業概要	保育の長期的な見通し、教職員の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を学ぶ。また、「計画・実践・反省・改善」の関連性についての実例を理解すると共に、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。								
テキスト	神長美津子他「教育課程論」光生館、「幼稚園教育要領解説 平成30年3月 文部科学省」フレーベル館、「保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省」フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省」フレーベル館								
授業計画	第1回	【幼稚園・保育所・認定こども園について】教科書を見て授業内容と幼稚園・保育所・認定こども園の違いについて学びます。							
	第2回	【全体的な計画について】園でいう計画とは何か。なぜ保育をするには計画が必要なのかを学びます。							
	第3回	【教育課程・全体的な計画の編成方法①】教育課程と全体的な計画とは何か。また、それらが、園の中でどのように編成されるのか、手順を学びます。							
	第4回	【教育課程・全体的な計画の編成方法②】手順、形式、記入内容を学びます。							
	第5回	【教育課程・全体的な計画の編成方法③】編成の際の配慮する点を学びます。							
	第6回	【指導計画との関係について】教育課程や全体的な計画は、全ての指導計画のもとになり、職員全員に共通理解を与えるものであることを理解しましょう。							
	第7回	【指導計画の作成方法】指導計画を作成する時は、子どもの実際の活動や経験をイメージしながら、実践に結びつけやすく、無理のないように具体的に作成することを学びます。							
	第8回	【年間指導計画について】年間指導計画とは何かを理解しながら実際に作成してみましょう。							
	第9回	【月間指導計画について】月間指導計画とは何かを理解しながら実際に作成してみましょう。							
	第10回	【週日案について】週日案とは何かを理解しながら実際に作成してみましょう。							
	第11回	【デイリープログラムについて】日案との違いは何かを理解しながら実際に作成してみましょう。							
	第12回	【保育における記録と反省】計画し、実践し、評価反省をすることにより、次の課題が見つかることを学びます。							
	第13回	【保育における評価と改善】計画し、実践し、評価反省をすることにより、次の課題が見つかることを学びます。反省と評価には様々な方法があることも学びます。							
	第14回	【現代の保育ニーズや他国の教育課程について】目まぐるしく変化する社会と子育てについて学びます。また、他国との保育の違いについて学ぶことにより、他国の良さ、私たちの保育の良さを見発すことができます。これからを生きる保育者として、日本の保育の課題は何かを考えましょう。							
	第15回	【期末試験】							
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
					50%	25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する									

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期				
科目名	保育相談支援演習	授業形態	講義	単位数	2単位				
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無		○					
実務経験教員の経歴	児童養護施設での保護者対応、子育て支援の経験から、現代の保護者が抱える育児不安やそれを支える社会資源について、実践的な指導を行う。								
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の専門性を生かした支援について理解する。 ・保護者との関係作り、関係機関との連携について理解する。 ・面接での技法や配慮について理解し、保育相談への対応、展開ができるようにする。 								
授業概要	保護者に対する相談支援がなぜ必要か、保育士の専門性を生かした支援の特徴を考え、子どもの利益を守り、保護者の問題解決を図る支援の実際を知る。保護者と信頼関係を結びながら、ともに育てる関係づくりや地域の関係諸機関との連携の仕方などを学修し、児童福祉施設全般の保育相談への対応、展開ができるようにする。								
テキスト	保育相談支援								
授業計画	第1回	オリエンテーション							
	第2回	保育相談支援の定義							
	第3回	保育所における相談支援							
	第4回	保育相談支援の対象者							
	第5回	保護者支援のねらい							
	第6回	保育を基盤とした保育相談支援							
	第7回	面接場面における配慮点							
	第8回	環境を通した保育相談支援							
	第9回	保育相談支援の展開過程①							
	第10回	保育相談支援の展開過程②							
	第11回	自己覚知(演習)							
	第12回	価値観(演習)							
	第13回	保護者面談(演習)							
	第14回	保護者面談(演習)							
	第15回	まとめ							
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
					50%	25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する									

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期				
科目名	保育内容総論Ⅱ	授業形態	講義	単位数	2 単位				
担当教員	原田 明子	実務経験の有無		○					
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育所での勤務経験から、現場で行われている保育と理論が一致する実践的指導を行う。								
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・養護と教育が一体となった保育内容を総合的に理解する ・実際にあったエピソードから、子どもが主体的に環境に関われる保育内容を考察する。 								
授業概要	1) 子どもの発達にあった保育内容を考え、実践に繋がるようにする。 2) 主体的に活動できるような保育者の関わりを考える。								
テキスト	関口はつ江「実践理解のための保育内容総論」、大豆生田啓友「21世紀型保育の探求」								
授業計画	第1回	保育の基本の確認①(生きる力の基礎を育てること、養護と教育の一体性、主体的に環境と関わるとは)							
	第2回	保育の基本の確認②(5領域を踏まえた保育、育ってほしい10の姿)							
	第3回	グループワーク①(低年齢児の園生活と保育内容、幼児期の保育内容の特徴)							
	第4回	グループワーク②(遊びの生活と保育内容、生きる力と園生活)							
	第5回	グループワーク③(保育内容の変遷と今日的課題)							
	第6回	グループワーク発表①							
	第7回	グループワーク発表②							
	第8回	実践につながる保育内容理解①(保育における子どもの育ちの捉え方)							
	第9回	実践につながる保育内容理解②(ねらいに対する多様な教材と保育方法、保育形態とその目的理解)							
	第10回	実践につながる保育内容理解③(保育ニーズ、保育実践方法の理解と指導上の留意点)							
	第11回	保育の実際①(エピソードから乳児の保育内容を考える)							
	第12回	保育の実際②(エピソードから幼児の保育内容を考える)							
	第13回	保育の実際③(エピソードから小学校との接続を考える)							
	第14回	現代社会と生きる力の基礎(今求められている保育とは)							
	第15回	期末テスト							
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
					50%	25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する									

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期				
科目名	臨床心理学	授業形態	講義	単位数	2 単位				
担当教員	稻場 健	実務経験の有無		○					
実務経験教員の経歴	養護学校講師、ケアワーカー、療育園児童指導員としての実務経験を生かし、現場で求められる教員の資質に基づいて実践的な指導を行う。								
授業のねらい (到達目標)	臨床心理学的実践の様々な領域についての学修を重ねて、実践的な臨床心理学的な視点や思考方法を身につける								
授業概要	発達的観点からの臨床心理学的人間理解として、乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期の心理的課題と問題について学ぶ。また、心理アセスメントの様々な侧面と方法について学ぶ。様々な臨床心理学的援助の方法についても触れる。								
テキスト	臨床心理学への招待(ミネルヴァ書房)								
授業計画	第1回	臨床心理学とは何か							
	第2回	学問的背景							
	第3回	正常と病理の概念							
	第4回	幼児期から児童期までの発達特徴と発達課題							
	第5回	青年期の心理と臨床心理学的問題							
	第6回	成人期と老人期の心理							
	第7回	心理アセスメントの理解とその多様性							
	第8回	心理面接によるアセスメント							
	第9回	心理テストによるアセスメント							
	第10回	臨床心理学的援助の方法①							
	第11回	臨床心理学的援助の方法②							
	第12回	臨床心理学的援助の方法③							
	第13回	教育・福祉・司法それぞれの領域における臨床心理学的実践							
	第14回	医療の領域における臨床心理学的実践							
	第15回	地域における臨床心理学的援助							
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期			
科目名	保育実習事後指導Ⅰ	授業形態	演習	単位数	1 単位			
担当教員	石井 まさみ	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	公立保育園に27年間勤務。保育士、主任、園長を経験。その経験から保育者に求められる資質や能力について伝えている。							
授業のねらい (到達目標)	・保育実習の意義・目的・内容・方法を深く学ぶ。。 ・実習に向けての基本的な心構えを理解し、実践する。・実習課題の明確化、実習記録の意義、方法の理解を図り実践する。・保育演習を通して保育場面のなかでの留意すべき事柄を確認し実践する。							
授業概要	①保育実習の意義・目的を理解し評価を行う。②保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解し総括・評価する。③保育者としての心構えや態度を学び自己評価する。④保育技術を習得し自己課題を明確にする。⑤実習記録の記入方法・内容を理解し評価する。⑥指導案を理解し、立案し、(主として部分実習)自己課題を明確にし次回に活かす。							
テキスト	・保育実習ハンドブック・保育実習学・保育者の常識67・保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・幼稚園・保育所・認定こども園実習パーソナルガイド							
授業計画	第1回	保育所実習の目的、意義を再確認する。						
	第2回	自己の実習を振り返る(保育所実習)…実習ノートから課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。						
	第3回	部分実習・責任実習の指導案の実践について振り返る。						
	第4回	施設概要をふまえ、施設実習の目的、意義を再確認する。						
	第5回	自己の実習を振り返る(施設実習)…実習ノートから課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。						
	第6回	自己の保育技術についての反省・考察 次回の実習への準備…実習後の自己課題について						
	第7回	1~6の学修内容について、スクーリング事に発表できるようにまとめを行う。						
	第8回	保育現場に関する視聴覚教材を参考に、保育環境、子どもの人間関係、保育者の援助について学ぶ。また、子どもを理解する大切さを知る。						
	第9回	子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する(0~2歳)						
	第10回	子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する(3~5歳)						
	第11回	保育技術の習得教材研究(絵本、紙芝居、折紙、手遊び等)						
	第12回	保育士の専門性について考察する(1) 保育士の専門性とは何か。						
	第13回	保育士の専門性について考察する(2) これから保育者に求められるものとは何か。						
	第14回	保育士を取り巻く今後の課題について 子育て支援・家庭支援、地域に根差した保育とは。						
	第15回	実習現場から得られた学びと、この科目の学修で得た新たな保育観についてまとめ、次回の実習における課題を明確にする。						
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期			
科目名	保育実習事前指導Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1 単位			
担当教員	石井 まさみ	実務経験の有無			○			
実務経験教員の経歴	公立保育園に27年間勤務。保育士、主任、園長を経験。その経験から保育者に求められる資質や能力について伝えている。							
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義・目的・内容の理解。 ・実収に向けての基本的な心構えを再確認する。 ・実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。 ・保育演習を通して、保育場面のなかでの留意する事柄を理解する。 ・実習での問題点の振り返りをし、保育者としての質を高める。 							
授業概要	<p>①何故実習をするのか、目的や意義について学び、「実習マニアル」を通して、マナーやルールなど実例を通して再確認する。②自分に足りない、またはもっと質を上げたい実習課題を具体的な内容で考えたり、実習記録の意義・方法について学び、自分の実習園を調べ理解を図る。③園の特徴や幼児理解を深めたうえで、責任実習指導案を作成し、それを基に演習をし、そこでの気付き、留意点などを理解する。④グループで振り返りすることで、自分の問題点に気付き、質を高めるための足りないものについて学ぶ。</p>							
テキスト	・保育実習ハンドブック・保育実習学・保育者の常識67・保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・幼稚園・保育所・認定こども園実習パーカーフェクトガイド							
授業計画	第1回	授業の概要と学習態度について・保育実習の時期及び準備等						
	第2回	どうして実習が必要なのか。 実習を通して学ぶ・目的と確認						
	第3回	実習生とは—ワークシートを通して一 実習生の心得・実収生の基本的マナー						
	第4回	幼稚園・保育園 保育内容の違い・一日の流れの違い・共通点						
	第5回	保育者に望まれる資質とは—ワークシートを通して一 子どもの心を支える保育者・生活文化を伝承する保育者						
	第6回	実習日誌(1) 実習日誌の必要性・作成のポイント						
	第7回	実習日誌(2)—ワークシートを通して一 形式と内容・記録のとり方						
	第8回	実習日誌(3) 実践に備えて、手書きに慣れる						
	第9回	部分実習と責任実習の違い 指導計画の理解と記述方法						
	第10回	部分実習に備えて(1) 部分実習指導案作成のポイント・環境構成図等						
	第11回	部分実習に備えて(2) 指導案の作成の実際						
	第12回	部分実習に備えて(3) 指導案の基、模擬保育・振り返りと課題						
	第13回	責任実習に備えて(4) 模擬保育・振り返りと課題						
	第14回	責任実習に備えて(5) 模擬保育・振り返りと課題						
	第15回	まとめ 振り返り、グループディスカッションによる自己課題の抽出						
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末			
					中間			
					平常			
					出欠			
					50%			
					25%			
					10%			
					15%			
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する								

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期				
科目名	保育実習事前指導Ⅲ	授業形態	演習	単位数	1 単位				
担当教員	石井 まさみ	実務経験の有無		○					
実務経験教員の経歴	公立保育園に27年間勤務。保育士、主任、園長を経験。その経験を「子どもの最善の利益」と結び付けながら事例を通して伝えている。								
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。 ・実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。 ・保育演習を通して、保育場面のなかでの留意する事柄を理解する。。 								
授業概要	<p>①何故実習をするのか、目的や意義について学び「実習マニアル」を通して、マナーやルールなど十例を通して再確認する。②自分に足りない、またはもっと質をあげたい実習課題を具体的な内容で考えたり、実習記録の意義・方法について学び、自分の実習施設を調べ理解を図る。③施設の特徴や利用者理解を深めた上で、幼児文化教材を実践する。</p>								
テキスト	<p>・保育実習ハンドブック・保育実習学・保育者の常識67・保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・幼稚園・保育所・認定こども園実習パーカーフェクトガイド</p>								
授業計画	第1回	施設の概要と学習態度について。 ・保育実習の時期及び準備等							
	第2回	第1章 福祉施設実習とは ①実習の意義②実習の目的③実習の理解							
	第3回	第1章 福祉施設実習とは ④福祉施設の子どもたち⑤福祉施設保育士の役割⑥専門職とは							
	第4回	第2章 福祉施設実習への事前学習 ①子どもに対する態度・行動②施設の職員に対する態度・行動③プライバシーの厳守④電話の基本マナーと実習の流れ							
	第5回	第2章 福祉施設実習への事前学習 ⑤実習事前訪問⑥実習計画⑦基本的な生活習慣							
	第6回	第3章 保育士と権利保障、ソーシャルワーク ①家庭の権利保障②ソーシャルワークとは							
	第7回	第4章 施設別の実習内容 ③実習記録の意味④実習日誌の書き方							
	第8回	第4章 施設別の実習内容 ①乳児院に実習②養護施設の実習③母子生活支援での実習④児童自立支援施設での実習							
	第9回	第4章 施設別の実習内容 ⑤児童相談所での実習⑥知的障がい施設での実習⑦視覚・聴覚施設での実習							
	第10回	第4章 施設別の実習内容 ⑧肢体不自由児施設での実習⑨重症心身障害児施設での実習⑩情緒障がい施設での実習							
	第11回	第5章 児童福祉施設実習事後の振り返り							
	第12回	一部分実習・責任実習への対応 保育力とは何かを学習する。幼児文化教材を実践する。(ペーパーサート・絵本等)							
	第13回	施設実習に行く心構えについて(目標・目的の確認)①							
	第14回	施設実習に行く心構えについて(目標・目的の確認)②							
	第15回	施設実習に行く前の準備確認と意欲のあり方について確認							
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
					50%	25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する									

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年				
科目名	保育実習Ⅱ	授業形態	実習	単位数	2 単位				
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無		<input checked="" type="radio"/>					
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・小学校等の該当実習施設での勤務経験								
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習生の姿勢態度 <ul style="list-style-type: none"> ・園や施設の方針を理解した上で適切に行動する。 ・目標を明確にし、向上心を持ち、実践的に学びを積むことが出来る ● 知識、技能 <ul style="list-style-type: none"> ・保育内容に合った教材準備や環境構成ができる(部分実習及び責任実習準備の充実) ・生活・遊びを促すための援助(かかわり)ができる ● 実習記録 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児とのかかわりから保育士の意図を感じ取り学びや気づきを書くことが出来る ・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。 ・子どもの姿を場面で捉え、それを「乳幼児理解」につなげることができる。 ● 指導案 <ul style="list-style-type: none"> ・指導案を書く意味が分かり、指導案を実践につなげるこができる。(部分、責任) ● 提出物 <ul style="list-style-type: none"> ・約束期日を守り、計画的にすすめる。 								
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもとのかかわりを深めながら観察し、保育理念や保育の課程をおさえ、保育士の職務を理解できるようにする ● 授業等で得た知識や技能を最大限に活かし総合的な実践ができるようにする。 								
単位認定 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づき実習日誌を総合して評価をする。</p> <p>上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する</p>								

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年
科目名	保育実習Ⅲ	授業形態	実習	単位数	2 単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無		<input checked="" type="radio"/>	
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・小学校等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習生の姿勢態度 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の方針を理解の上、保育者と子ども・利用者とのかかわり方を学び、適切に行動する ・保育実習の経験を活かし主体的に動く。 ● 知識、技能 <ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係を気づくための技術を身につける ・施設の役割と社会的な位置づけを知る ・施設の現状(生活や職員の役割)を理解する ● 実習記録 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや利用者とのかかわりから保育士の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことが出来る ・「個」と「集団」それぞれの姿を記録できる ・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。 ● 指導案 <ul style="list-style-type: none"> ・指導案を書く意味が分かり、指導案を実践につなげる事ができる。 ● 提出物 <ul style="list-style-type: none"> ・約束期日を守り、計画的にすすめる。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会福祉施設における実習を通して施設における子ども・利用者の生活をりかいするとともに、様々な職種の連携について知り、保育者として必要な支援技術の向上を目指し、指導する。 ● 授業等で得た知識や技能を最大限に活かし総合的な実践ができるようにする。 				
単位認定 評価方法	実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づき実習日誌を総合して評価をする。 上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する				

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期				
科目名	教育相談(カウンセリングを含む)【初等教育】	授業形態	講義	単位数	2単位				
担当教員	中井 和弥	実務経験の有無		○					
実務経験教員の経歴	児童養護施設で小学生のカウンセリングを2年半行った経験や、カウンセリングルームでの5年のカウンセリング経験に基づき、保育現場で役立つ教育相談の知識を教授する。								
授業のねらい (到達目標)	学校現場で生じる問題を理解し、教育相談の意義、教育相談におけるカウンセリングについて理解を深める。								
授業概要	教育相談は、現在の学校教育のすべての活動の中で幅広く実践されており、教師にとって不可欠な資質である。そこで、学校における教育相談とは何か、生徒指導上の有効性、学級経営上の有効性などを理論、技法・態度などの体験を通して学習していく。								
テキスト	エッセンス学校教育相談心理学								
授業計画	第1回	教育相談の定義							
	第2回	教育相談の実際							
	第3回	開発的カウンセリング							
	第4回	来談者中心療法							
	第5回	精神分析							
	第6回	行動療法・認知行動療法							
	第7回	家族療法・ブリーフセラピー							
	第8回	教育アセスメント							
	第9回	発達障害							
	第10回	心の問題							
	第11回	不登校							
	第12回	非行							
	第13回	学級崩壊							
	第14回	いじめ							
	第15回	保護者に対する支援							
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期				
科目名	教育相談(カウンセリングを含む)【中等教育】	授業形態	講義	単位数	2単位				
担当教員	中井 和弥	実務経験の有無		○					
実務経験教員の経歴	児童養護施設で中学生のカウンセリングを2年半行った経験や、カウンセリングルームでの5年のカウンセリング経験に基づき、保育現場で役立つ教育相談の知識を教授する。								
授業のねらい (到達目標)	学校現場で生じる問題を理解し、教育相談の意義、教育相談におけるカウンセリングについて理解を深める。								
授業概要	教育相談は、現在の学校教育のすべての活動の中で幅広く実践されており、教師にとって不可欠な資質である。そこで、学校における教育相談とは何か、生徒指導上の有効性、学級経営上の有効性などを理論、技法・態度などの体験を通して学習していく。								
テキスト	エッセンス学校教育相談心理学								
授業計画	第1回	教育相談の定義							
	第2回	教育相談の実際							
	第3回	開発的カウンセリング							
	第4回	来談者中心療法							
	第5回	精神分析							
	第6回	行動療法・認知行動療法							
	第7回	家族療法・ブリーフセラピー							
	第8回	教育アセスメント							
	第9回	発達障害							
	第10回	心の問題							
	第11回	不登校							
	第12回	非行							
	第13回	学級崩壊							
	第14回	いじめ							
	第15回	保護者に対する支援							
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
					50%	25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する									

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期			
科目名	授業研究	授業形態	講義	単位数	2 単位			
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	宮城県公立小中学校 1.5か年、山形県小学校教員9か年、国立大学法人教員養成系大学および大学院におけるティーチングアシストおよびティーチングサポート(授業支援、学生支援)2か年							
授業のねらい (到達目標)	授業研究について知識を持ち、研究することの大切さを理解し、自身が授業研究に取り組むことで実習や将来行う授業に備えることができるようとする。							
授業概要	①授業研究とは ②「授業研究」を教師側、児童側それぞれの視点でつかむ ③授業研究のための資料収集 ④授業研究の展開							
テキスト	東京福祉大学指定のテキストならびに、各地域教委、教育センター執筆教材を併用							
授業計画	第1回	オリエンテーション「授業研究」とは何か						
	第2回	「授業研究」を構成する要素						
	第3回	授業研究の実際						
	第4回	「授業研究」を研究する						
	第5回	授業・指導案・板書						
	第6回	指導案作成						
	第7回	指導案作成						
	第8回	指導案作成						
	第9回	「総合的な学習の時間」(総合学習)と生活科						
	第10回	「総合的な学習の時間」(総合学習)と生活科						
	第11回	総合的な学習の時間(総合学習)の活動の実際-伊那市立伊那小学校-						
	第12回	総合的な学習の時間(総合学習)の活動の実際-伊那市立伊那西小学校-						
	第13回	総合的な学習の時間(総合学習)の活動の実際-諏訪市立高島小学校-						
	第14回	算数科の授業研究						
	第15回	国語科の授業研究						
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末			
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				中間			
			50%	25%	10%			
			15%					

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期				
科目名	道徳の指導法	授業形態	講義	単位数	2単位				
担当教員	橋本 定男	実務経験の有無	○						
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし、現場で求められる教員の資質に基づいて実践的な指導を行います。								
授業のねらい (到達目標)	道徳教育の授業理論や発達段階に応じた授業実践について学修し、道徳の学習指導案を作成できる能力を養う。								
授業概要	道徳教育の改訂の経緯、道徳教育の基本的なあり方、目標と内容、指導計画、道徳の時間の指導、全教育活動における指導、家庭・地域社会との連携、道徳教育における児童理解と評価の意義、道徳的、倫理的課題について学修する。								
テキスト	中戸義雄、他『道徳教育の可能性:その理論と実践』ナカニシヤ出版								
授業計画	第1回	道徳教育は必要か(1)(教科書:第1章) 道徳とは何かを確認したうえで、学校教育における道徳と他の授業科目(国語・算数など)との違いをおさえる。							
	第2回	道徳教育は必要か(2)(教科書:第1章) 「手品師」という人気道徳教材をもとに、道徳授業のあり方を考える。							
	第3回	道徳と倫理(教科書:第2章) 道徳と倫理をめぐる人類の叡智と学問的な蓄積を、歴史にさかのぼって通観する。							
	第4回	道徳教育の歴史(教科書:第3章) 日本の道徳教育の歴史を、その時々の社会・政治体制との影響関係を通じて理解する。							
	第5回	道徳教育における発達と生成(教科書:第4章) 心理学者コールバーグの理論を踏まえながら、日本映画『アカルイミライ』を題材にして現代社会における道徳形成のあり方を考える。							
	第6回	道徳規範の諸側面(1)(教科書:第5章) 普遍的な道徳的価値があるとする道徳的絶対主義と、道徳的価値は個人や社会や文化圏によって異なるとする道徳的相対主義の違いを理解する。							
	第7回	道徳教育の諸側面(2)(教科書:第5章) 道徳的絶対主義と道徳的相対主義の違いを踏まえながら、個人と他者との関係を考察する。							
	第8回	悪について(教科書:第7章) 道徳を、「よさ」からではなく、「悪」から検討することで、道徳認識の射程を広げる。							
	第9回	情報社会の倫理(教科書:第8章) 社会の変化に伴って生じている新たな道徳・倫理的課題(ここでは「情報倫理」とその教育を検討する。							
	第10回	応用倫理(1)(教科書:第9章) 社会の変化に伴って生じている新たな道徳・倫理的課題(ここでは「生命倫理」とその教育を検討する。							
	第11回	応用倫理(2)(教科書:第9章) 社会の変化に伴って生じている新たな道徳・倫理的課題(ここでは「動物倫理」とその教育を検討する。							
	第12回	応用倫理(3)(教科書:第9章) 社会の変化に伴って生じている新たな道徳・倫理的課題(ここでは「環境倫理」とその教育を検討する。							
	第13回	道徳教育の現代的傾向と新米教師の苦悩(教科書:第10・11章) 道徳教育の変遷を確認しながら、新米教師の奮闘記を手掛かりとして、道徳教育を実践的に考える。							
	第14回	道徳の授業(教科書:第15・16章) 障がいのある子どもとの交流や養護学校との交流活動の実践を検討する。							
	第15回	道徳をめぐる個人的視点を社会的視点 これまでの授業を振り返りながら、道徳をめぐる個人と社会の関係を捉えなおす。							
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期			
科目名	教育実習指導(初等)	授業形態	演習	単位数	1 単位			
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。							
授業のねらい (到達目標)	1. 教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。 2. 幼児の発達特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法を習得し、目標とめあてをもって実習に臨む態度を育成する。 3. 実習後に総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。							
授業概要	教育実習は、習得した知識や理論を、実際に体験する場であることを理解し、目標とめあてを持って実習に臨み、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、資質を向上させることを目的とする。そのために、教育実習における日誌や個人記録の取り方の多様な視点を学び、幼児教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。							
テキスト	教育実習(初等)の手引き							
授業計画	第1回	実習に必要な心構え、マナー、資質の理解①						
	第2回	実習に必要な心構え、マナー、資質の理解②						
	第3回	教育実習の意味 実習に向けての自己分析・自己課題の作成①						
	第4回	実習に向けての自己分析・自己課題の作成②						
	第5回	実習に向けての自己分析・自己課題の作成③						
	第6回	子ども理解と援助・支援技術の理解① 教育環境と子どもの実態						
	第7回	子ども理解と援助・支援技術の理解② 教育環境と子どもの実態						
	第8回	指導案、記入に必要な事項 様々な記録の取り方①						
	第9回	指導案、記入に必要な事項 様々な記録の取り方②						
	第10回	指導案、記入に必要な事項 様々な記録の取り方③						
	第11回	指導案の作成① 題材、活動内容等の記入						
	第12回	指導案の作成② 援助、支援等の工夫						
	第13回	子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察①						
	第14回	子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察②						
	第15回	まとめ 目指す授業と自己課題の再設定						
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する								

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期				
科目名	社会	授業形態	講義	単位数	2単位				
担当教員	有田 一正	実務経験の有無	○						
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし、現場で求められる教員の資質に基づいて実践的な指導を行う。								
授業のねらい (到達目標)	小学校社会科の目標と内容について、小学校学習指導要領解説・社会編を基にして学修し、理解を深める。								
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 今回の学習指導要領の改訂における小学校社会科の改訂のねらいと社会科の目標及び各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に学修する。 学び方や調べ方を身につける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習のあり方についても学修する。 								
テキスト	北俊夫、加藤寿朗 編『小学校新学習指導要領の展開 社会編』明治図書 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社								
授業計画	第1回	課題:「社会科」に期待されていることは何だろう。テキストpp.1-9を読み、改訂された学習指導要領の性格をまとめよう。							
	第2回	課題①:教育基本法より、社会科に関係する箇所・条文を見つけよう。 課題②:戦後に登場した社会科はどのような内容であったのか。							
	第3回	課題:各学年の目標のうち、「理解に関する目標」「態度に関する目標」について注目し、学年を追ってどのような発達を子どもに期待しているのか説明してみよう。							
	第4回	課題①:指導計画を作成する上での配慮事項をまとめよう。 課題②:各学年にわたる内容の取り扱いと指導上の配慮事項をまとめよう。							
	第5回	課題:学習指導作成にあたってのポイントを整理しよう。							
	第6回	設題:社会科における「言語活動」はどうあるべきか。具体的な指導方法を取り上げ、どう評価するのか説明しよう。							
	第7回	第3・4学年の地域学習① 課題:「地域における社会的事象を観察や調査する」にあたり具体的に取り組ませる時のポイントを指摘しよう。							
	第8回	第3・4学年の地域学習② 課題:地域図から「地形」「土地の利用の様子」を読み取ろう。							
	第9回	第3・4学年の地域学習③ 課題:地域巡検を実践しよう。							
	第10回	第5学年の国土学習 課題:我が国の位置と領土について調べる際の留意点について説明しよう。							
	第11回	第5学年の産業学習 課題:統計資料にはどのような種類があるのか。又それぞれの特性について考えよう。							
	第12回	第6学年の国際社会と日本の学習 課題:「グローバル化する世界と日本の役割」をどう学ばせるのか、具体的に学ばせる時のポイントを指摘しよう。							
	第13回	課題:指導計画の作成にあたっての配慮事項にはどのようなものがあるのか、要点をまとめよう。							
	第14回	課題:内容の取り扱いについての配慮事項にはどのようなものがあるのか、要点をまとめよう。							
	第15回	課題:学習指導案作成にあたってのポイントを整理しよう。授業の時に大切にすることは何か。その根拠も含めて各々リストアップしてみよう。							
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準 50% 25% 10% 15%	期末	中間	平常	出欠	
上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する									

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期				
科目名	家庭	授業形態	講義	単位数	2単位				
担当教員	菊地 順子	実務経験の有無	○						
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし、現場で求められる教員の資質に基づいて実践的な指導を行う。								
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活に焦点をあて、日常生活に必要な基礎的 ・基本的な知識と技能を身につけ、家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる。 								
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領解説(家庭編)を基に、その内容について理解し教科書を参考にその指導法を探らせる。 ・実践的・体験的な学習活動を重視しながら、指導する立場に立って、体を通して学びとらせる。 								
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説(平成29年告示)解説 家庭編』東洋館出版社								
授業計画	第1回	家庭科教育の変遷について概略を理解する。							
	第2回	H29年告示小学校学習指導要領における教科目標について理解する。 教科目標及び内容項目構成について考察する。							
	第3回	A「家族・家庭生活」の題材の取り上げ方、構成、指導上の要点などを学び、指導上の留意点を理解する。							
	第4回	B「衣食住の生活」における学修内容を学び、題材構成や指導上の留意点を理解する。							
	第5回	家庭科で実習指導を行う際に配慮すべき点について。(実習には調理・製作・洗濯などが含まれる。)							
	第6回	鍋による炊飯、出汁からとるみそ汁の実習をし、出汁の取り方など日本の伝統的な食文化の大切さを学ぶ。							
	第7回	B「衣食住の生活」(4)衣服の着用と手入れ(5)生活を豊かにするための布を用いた製作における内容を学び、題材構成や指導上の留意点を理解する。							
	第8回	洗濯、特に手洗いのしかたを実習し、基礎基本を学ぶ。							
	第9回	小学校家庭科における手縫いの実習をし、基礎基本を学ぶ。							
	第10回	小学校家庭科におけるミシン縫いを実習し、基礎基本を学ぶ。							
	第11回	B「衣食住の生活」における(6)快適な住まい方についての内容を学び、題材構成や指導上の留意点を理解する。							
	第12回	C「消費生活・環境」環境に配慮するための知識を理解し、指導上の留意点を理解する。							
	第13回	指導計画作成における題材構成や教材選びについての留意点を考察し、指導上の配慮事項について学びを深める。							
	第14回	上記13で学習したことを基に自分なりの単元(題材)を構想し、学習展開を考える。							
	第15回	自分の生活する地域の素材に目を向け、地域性を取り入れようとするとき、どんな題材や素材があるのか、どのように小学校家庭科授業に取り入れたらよいか工夫を考える。							
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
					50%	25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する									

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期																														
科目名	社会科指導法	授業形態	講義	単位数	2単位																														
担当教員	有田 一正	実務経験の有無	○																																
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし、現場で求められる教員の資質に基づいて実践的な指導を行う。																																		
授業のねらい (到達目標)	<p>「社会事象に興味・関心を持って取り組む」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書等から確認し理解する。</p> <p>小学校社会科の指導方法について具体的な資料等を通して学び、実践的な指導力を身につける。</p>																																		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校社会科及び学年の目標と内容について再確認する。 ・各学年の年間計画と各单元の指導計画の作成について具体的に学習する。 ・これらの学習を踏まえ、児童が社会的事象に興味・関心をもって主体的に社会科の授業に取り組み、確かな学力を身につける問題(課題)解決学習などの指導法に重点を置いて学習する。 ・総合的な学習の時間との関連についても学ぶ。 																																		
テキスト	<p>文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍 北俊夫、他『小学校新学習指導要領の展開 社会科編』明治図書</p>																																		
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第1回</td> <td>「小学校でねらう公民的資質の基礎」について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書等で確認し理解する。</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>小学校社会科第3・4学年の目標について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書で理解する。</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>小学校社会科第5・6学年の目標について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書で理解する。</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>小学校社会科第3・4学年の内容について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書から確認し理解する。</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>小学校社会科第5学年の内容について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書から確認し理解する。</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>小学校社会科第6学年の内容について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書から確認し理解する。</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>「確かな学力を身につける社会科の授業」について、「学習指導要領解説 社会編」の改訂の趣旨や教科書を確認し、観点別学習票の趣旨等を理解し、学習指導案を作成する。</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>模擬授業を振り返り、授業改善を図る手立てを具体的に考えまとめる。「社会的な見方や考え方」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書等から確認し理解する。</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>「社会科における言語活動の充実」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書等から確認し理解する。</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>「社会科における問題解決学習」について、これまでの授業実践や研究成果を踏まえ、教科書等から理解する。</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>「社会科における体験的学习」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書等から理解する。</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>「小学校社会科と総合的な学習の時間の関連」について、総合的な学習が誕生した背景を理解し、社会科と総合的な学習の時間の共通点と相違点を確認しながら理解する。</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>「小学校社会科の年間指導計画作成のポイント」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書から理解する。</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>「小学校社会科の単元の指導計画作成のポイント」について、単元の目標や指導計画、単元の展開のポイント、評価の手立て等について教書を整理し確認する。</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>「社会事象に興味・関心を持って取り組む」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書等から確認し理解する。</td> </tr> </table>					第1回	「小学校でねらう公民的資質の基礎」について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書等で確認し理解する。	第2回	小学校社会科第3・4学年の目標について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書で理解する。	第3回	小学校社会科第5・6学年の目標について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書で理解する。	第4回	小学校社会科第3・4学年の内容について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書から確認し理解する。	第5回	小学校社会科第5学年の内容について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書から確認し理解する。	第6回	小学校社会科第6学年の内容について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書から確認し理解する。	第7回	「確かな学力を身につける社会科の授業」について、「学習指導要領解説 社会編」の改訂の趣旨や教科書を確認し、観点別学習票の趣旨等を理解し、学習指導案を作成する。	第8回	模擬授業を振り返り、授業改善を図る手立てを具体的に考えまとめる。「社会的な見方や考え方」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書等から確認し理解する。	第9回	「社会科における言語活動の充実」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書等から確認し理解する。	第10回	「社会科における問題解決学習」について、これまでの授業実践や研究成果を踏まえ、教科書等から理解する。	第11回	「社会科における体験的学习」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書等から理解する。	第12回	「小学校社会科と総合的な学習の時間の関連」について、総合的な学習が誕生した背景を理解し、社会科と総合的な学習の時間の共通点と相違点を確認しながら理解する。	第13回	「小学校社会科の年間指導計画作成のポイント」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書から理解する。	第14回	「小学校社会科の単元の指導計画作成のポイント」について、単元の目標や指導計画、単元の展開のポイント、評価の手立て等について教書を整理し確認する。	第15回	「社会事象に興味・関心を持って取り組む」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書等から確認し理解する。
第1回	「小学校でねらう公民的資質の基礎」について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書等で確認し理解する。																																		
第2回	小学校社会科第3・4学年の目標について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書で理解する。																																		
第3回	小学校社会科第5・6学年の目標について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書で理解する。																																		
第4回	小学校社会科第3・4学年の内容について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書から確認し理解する。																																		
第5回	小学校社会科第5学年の内容について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書から確認し理解する。																																		
第6回	小学校社会科第6学年の内容について、「小学校学習指導要領解説 社会編」及び教科書から確認し理解する。																																		
第7回	「確かな学力を身につける社会科の授業」について、「学習指導要領解説 社会編」の改訂の趣旨や教科書を確認し、観点別学習票の趣旨等を理解し、学習指導案を作成する。																																		
第8回	模擬授業を振り返り、授業改善を図る手立てを具体的に考えまとめる。「社会的な見方や考え方」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書等から確認し理解する。																																		
第9回	「社会科における言語活動の充実」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書等から確認し理解する。																																		
第10回	「社会科における問題解決学習」について、これまでの授業実践や研究成果を踏まえ、教科書等から理解する。																																		
第11回	「社会科における体験的学习」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書等から理解する。																																		
第12回	「小学校社会科と総合的な学習の時間の関連」について、総合的な学習が誕生した背景を理解し、社会科と総合的な学習の時間の共通点と相違点を確認しながら理解する。																																		
第13回	「小学校社会科の年間指導計画作成のポイント」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書から理解する。																																		
第14回	「小学校社会科の単元の指導計画作成のポイント」について、単元の目標や指導計画、単元の展開のポイント、評価の手立て等について教書を整理し確認する。																																		
第15回	「社会事象に興味・関心を持って取り組む」について、「学習指導要領解説 社会編」、教科書等から確認し理解する。																																		
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する			総合評価 算出基準 50% 25% 10% 15%	期末 中間 平常 出欠																														

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期			
科目名	家庭科指導法	授業形態	講義	単位数	2単位			
担当教員	菊地 順子	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	公立小学校での勤務経験を生かし、現場で求められる教員の資質に基づいて実践的な指導を行う。							
授業のねらい (到達目標)	-衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活に焦点をあて、日常生活に必要な基礎的 -基本的な知識と技能を身につけ、家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる。							
授業概要	教科としての「家庭科」の意義と、小学校における「家庭科」の目標、内容、指導方法について、平成29年告示をもとに習得する。また「家庭科」から総合的な学習の時間などへの提案についても学ぶ。							
テキスト	小学校学習指導要領解説 家庭編(平成29年3月告示 文部科学省)東洋館出版社							
授業計画	第1回	小学校家庭科の変遷、改訂の流れ及び育成すべき学習内容の理解						
	第2回	平成29年改訂の小学校学習指導要領の基になっている平成28年中央教育審議会答申を読み、これから家庭科教育における課題を掴む。						
	第3回	平成29年改訂小学校学習指導要領家庭科において改訂された部分を把握し、これからの家庭科教育の在り方を理解する。						
	第4回	小学校家庭科の学習の基礎・基本について衣食住を中心に理解する。						
	第5回	家庭科指導の学習指導のあり方の特質について、児童や地域の実態などの日常生活に合う題材の実践的活動の工夫を学ぶ。						
	第6回	家庭科の学習内容の全体構造について学ぶ。						
	第7回	家庭科における「基礎・基本」について体験的・実践的活動を通じた授業について学ぶ。						
	第8回	家庭科における実践的な態度の育成について学ぶ。						
	第9回	家庭科における学習評価 観点別による評価や評価方法を理解する。						
	第10回	家庭科と総合的な学習の時間や道徳などとの関連を学ぶ。						
	第11回	小学校の家庭科と他教科との関連、中学校家庭科との関連について学ぶ。						
	第12回	題材構成をした授業計画の構想1 参考文献などの実践例から授業指導計画を学び、学習展開や題材構成についてポイントを理解する。						
	第13回	題材構成をした授業計画の構想2 参考文献などの実践例から題材構成をし、授業指導計画の構想、学習指導案の作成をする。						
	第14回	題材構成をした授業計画の構想3 授業指導計画の中から本時の学習展開を構想し、作成する。						
	第15回	1~3回の内容を中心に設題1について文章化する。						
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準により〇認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期			
科目名	衛生学	授業形態	講義	単位数	2 単位			
担当教員	大滝 則子	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	小学校、中学校、特別支援学校養護教諭としての実務経験を活かし、現場で求められる保育者の資質に基づいて実践的な指導を行う。							
授業のねらい (到達目標)	人間生活における身近な問題としての環境衛生を理解する							
授業概要	健康問題に関する衛生学諸領域の基礎的事項について理解するとともにそれらが健康にどう影響を及ぼすかを考える。また、子どもの時からよい衛生環境条件を維持することが重要であることについて学ぶ。							
テキスト	基礎衛生・公衆衛生学(朝倉書店)							
授業計画	第1回	衛生・公衆衛生学とは何か						
	第2回	疫学について						
	第3回	感染症の概要						
	第4回	感染症の予防						
	第5回	母子保健						
	第6回	学校保健						
	第7回	精神保健						
	第8回	産業保健①						
	第9回	産業保健②						
	第10回	環境衛生①						
	第11回	環境衛生②						
	第12回	環境保健③						
	第13回	環境保健④						
	第14回	食品衛生・国民栄養						
	第15回	まとめ						
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期			
科目名	学校保健学	授業形態	講義	単位数	2 単位			
担当教員	大滝 則子	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	小学校、中学校、特別支援学校養護教諭としての実務経験を活かし、現場で求められる保育者の資質に基づいて実践的な指導を行う。							
授業のねらい (到達目標)	教育と管理の側面から広義の学校保健活動を実践することのできる知識をみにつける							
授業概要	児童生徒にとっての学校は、教育の行われる場であるとともに健康な生活が行われる場である。児童の健康の保持増進を図り学校教育を円滑に実施するための学校保健の知識・技術を学ぶ。							
テキスト	教育健康学(ぎょうせい)							
授業計画	第1回	母性と乳幼児期						
	第2回	児童生徒の健康と環境①小児期の疾病の特性、先天性疾患						
	第3回	児童生徒の健康と環境②学校環境衛生管理・学校安全						
	第4回	児童生徒の健康と環境③学校保健・学校給食・学校保健管理						
	第5回	心の発達と病への対応①						
	第6回	心の発達と病への対応②						
	第7回	個と集団の健康						
	第8回	免疫と感染①						
	第9回	免疫と感染②						
	第10回	免疫と感染③						
	第11回	食と健康						
	第12回	健康教育						
	第13回	保健学習						
	第14回	保健指導						
	第15回	関連専門職との連携						
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末			
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				中間			
			平常	出欠	50%			
			10%	15%	25%			

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期			
科目名	解剖生理学Ⅰ	授業形態	講義	単位数	2 単位			
担当教員	鈴木 了	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	○医学部肉眼解剖学教育に関する業務 ○医学部における献体関連業務 ○マクロ解剖夏期セミナー(新潟) 開催・運営業務および解剖指導							
授業のねらい (到達目標)	ヒトの身体を全体から見てその構造と機能をうまく関連させて考える思考をみにつけ、基本的知識を高める。							
授業概要	不調を訴える児童生徒に対し、身体の中でどのようなことが起こっているのか考え方をすべきかを考えるために解剖と生理を結び付けながら基本的事項を学ぶ							
テキスト	人体のしくみとはたらき(朝倉書店)							
授業計画	第1回	人体の基本構造と発生・成長						
	第2回	体液の組成と恒常性						
	第3回	皮膚の構造と機能						
	第4回	筋系						
	第5回	循環器系						
	第6回	造血器系						
	第7回	消化器系とエネルギー代謝						
	第8回	呼吸器系						
	第9回	生殖器系						
	第10回	中枢神経系						
	第11回	末梢神経系						
	第12回	内分泌系						
	第13回	体性感覚						
	第14回	特殊感覚						
	第15回	熱産生・熱放散						
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席			総合評価 算出基準	期末			
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度				中間			
			平常	出欠				
			50%	25%	10%	15%		
上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する								

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	前期				
科目名	精神保健学	授業形態	講義	単位数	4単位				
担当教員	中井 和弥	実務経験の有無		○					
実務経験教員の経歴	高齢者施設で3年間認知症検査を行っていた経験や、カウンセリングルームでの5年のカウンセリング経験に基づき、精神保健に関する基本的知識を教授する。								
授業のねらい (到達目標)	精神保健の意義や課題といった基本事項を押さえながら、精神保健についてライフサイクル・地域・職種など、多様な観点から理解し、説明できる。								
授業概要	精神保健とは、精神的健康に関する公衆衛生であり、精神障害の予防・治療・リハビリテーションから、精神的健康の保持・増進を図るための諸活動までも含んでいる。このような精神保健の基本的視点や基本知識を学修し、現代の精神保健の意義や課題を考える。								
テキスト	精神保健学—精神保健の課題と支援								
授業計画	第1回	現代社会と精神保健、精神保健の意義と課題							
	第2回	ライフサイクルにおける精神保健、乳幼児期、学童期							
	第3回	ライフサイクルにおける精神保健、思春期、青年期							
	第4回	ライフサイクルにおける精神保健、成人期							
	第5回	ライフサイクルにおける精神保健、老年期、認知症について							
	第6回	我が国の精神障害対策							
	第7回	アルコール関連問題対策、薬物乱用対策について							
	第8回	思春期の精神保健対策							
	第9回	地域精神保健活動、こころの健康づくり、司法精神福祉対策							
	第10回	緩和ケアと精神保健、精神保健における技法・カウンセリングやケアについて							
	第11回	家庭における精神保健、学校における精神保健							
	第12回	地域精神保健の現状と課題、精神保健福祉に関する調査研究							
	第13回	メンタルヘルスの諸問題における関連専門職の役割と連携							
	第14回	世界の精神保健							
	第15回	これまでの精神保健学の学修内容をまとめる							
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
	上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期			
科目名	看護学(救急処置を含む)	授業形態	講義	単位数	4 単位			
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無	×					
実務経験教員の経歴								
授業のねらい (到達目標)	①学校における救急処置方法を根拠を踏まえて説明できる ②学校看護における養護教諭の役割と職務内容について理解する							
授業概要	学校で子どもたちや教職員の命を守るために必要な看護に関する専門的な知識を身につける							
テキスト	なし							
授業計画	第1回	養護教諭の役割と救急処置						
	第2回	救急処置の基本・バイタルサイン						
	第3回	アセスメント						
	第4回	心肺蘇生法						
	第5回	ショック・出血・創傷処置						
	第6回	呼吸困難、発熱、けいれん、咳						
	第7回	めまい・立ち眩み・恶心・嘔吐・倦怠感						
	第8回	異物、骨折・脱臼・捻挫・打撲						
	第9回	中毒、熱中症、熱傷・火傷、凍傷、電撃、溺水						
	第10回	食物アレルギー児への対応						
	第11回	学校不適応児への対応						
	第12回	発達障害児への対応						
	第13回	虐待の対応						
	第14回	他職種との連携						
	第15回	看護学まとめ						
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準により〇認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期			
科目名	地域看護学	授業形態	講義	単位数	2 単位			
担当教員	大滝 則子	実務経験の有無						
実務経験教員の経歴	小学校、中学校、特別支援学校養護教諭としての実務経験を活かし、現場で求められる保育者の資質に基づいて実践的な指導を行う。							
授業のねらい (到達目標)	地域住民のよりよい健康安全とそれを支える地域社会、環境を総合する働きかけを行う実践力をみにつける。							
授業概要	生活の場としての地域社会と住民の健康を保持増進するための看護活動の地域保健や公衆衛生看護学とこの地域看護学は同意語である。母子、老人、家族が生活を営む地域の保健医療・福祉行政施策と保健看護諸活動の実際を包括した医療を体系的に学ぶ。							
テキスト	教育の基礎としての公衆衛生看護ノート(教育家庭新聞社)							
授業計画	第1回	地域看護とは						
	第2回	地域社会と地域看護						
	第3回	地域における健康教育と学校における健康教育						
	第4回	学校看護と地域看護①						
	第5回	学校看護と地域看護②						
	第6回	保健福祉医療関係の人的資源・物的資源						
	第7回	学校保健と子ども家庭福祉						
	第8回	社会福祉の理念と権利保障						
	第9回	子どもを養育する権利と義務						
	第10回	子ども家庭福祉に関する法体系・児童虐待						
	第11回	子ども家庭福祉と地域ネットワーク						
	第12回	児童の社会的養護サービス						
	第13回	ひとり親家庭への支援						
	第14回	要保護児童対策協議会						
	第15回	子ども家庭支援の実際						
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期				
科目名	看護臨床実習指導	授業形態	演習	単位数	2 単位				
担当教員	大滝 則子	実務経験の有無		○					
実務経験教員の経歴	小学校、中学校、特別支援学校養護教諭としての実務経験を活かし、現場で求められる保育者の資質に基づいて実践的な指導を行う。								
授業のねらい (到達目標)	看護臨床実習に対する理解を深め実習生としての態度や心構えをみにつける								
授業概要	実習の意義と心構えを理解し、実習に必要な知識や技術を再確認し自己課題を明確にする								
テキスト	養護教諭のための看護学 改訂版(大修館書店)								
授業計画	第1回	実習の目的と意義							
	第2回	実習の概要①							
	第3回	実習の概要②							
	第4回	医療機関実習の心構え							
	第5回	看護の基礎知識							
	第6回	バイタルサインの測定							
	第7回	観察の観点とフィジカルアセスメント							
	第8回	体位変換・安楽な姿勢							
	第9回	包帯法・三角巾							
	第10回	小児科・内科							
	第11回	精神科・神経科							
	第12回	外科・整形外科							
	第13回	眼科・耳鼻咽喉科							
	第14回	皮膚科・産婦人科							
	第15回	実習の課題							
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
	上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期			
科目名	養護実習指導	授業形態	演習	単位数	1 単位			
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無	×					
実務経験教員の経歴								
授業のねらい (到達目標)	①実習の目的や内容を理解し、目標と実習計画を立てる ②記録の方法について理解する ③実習に必要な実践能力を身につける							
授業概要	養護実習の目的と内容を学び実習の意義を理解する。次に、実習校について事前に調べ学校の概要を理解したうえで実習の目標を定め実習計画を立てる。そして、実習で取り組みたいことについて学生同士の学び合う機会を設け実践力を養う。							
テキスト	①児童生徒の健康診断マニュアル(平成27年改訂) ②新潟県養護教諭執務の手引き							
授業計画	第1回	実習オリエンテーション						
	第2回	実習校について・実習の目標						
	第3回	養護教諭の行う授業・健康教育						
	第4回	授業の進め方と指導案の書き方						
	第5回	実習で取り組みたい健康教育①(調べ学習)						
	第6回	実習で取り組みたい健康教育②(調べ学習)						
	第7回	場面指導①内科的疾患						
	第8回	場面指導②内科的疾患						
	第9回	場面指導③外科的疾患						
	第10回	模擬授業①						
	第11回	模擬授業②						
	第12回	模擬授業③						
	第13回	模擬授業④						
	第14回	ほけんだより						
	第15回	養護実習まとめ						
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	4学年	開講期	通年			
科目名	養護実習	授業形態	実習	単位数	2 単位			
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無	×					
実務経験教員の経歴								
授業のねらい (到達目標)	<p>養護実習の目的には、端的には、学校保健の現場を体験し、養護教諭の職務を経験的に学習することにより、学校教育、学校保健、養護教諭の職務に関する理解を深め、責任を持って学校保健に携わる資質と態度を養成することにある。その目的を達成するため、具体的に以下のような点を目標として実習に取り組むことが求められる。また、以下の点以外にも、自分自身の課題に則して目標を設定し、課題を明確にすることが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校という教育現場について理解する ②保健室、養護教諭の役割について理解する ③養護教諭の職務について理解する ④養護教諭の職務を体験し、必要な能力を養う ⑤養護教諭への意欲を高めると共に、養護教諭として必要な資質、態度について理解する 							
授業概要	<p>実習の内容、項目は、実習の時期や校種、実習校の状況などに応じて決定されます。 以下はその主な項目であります、実習機会のない項目についても可能な限り自ら学習を進め、 実習校の保健活動全体の把握に努めるようにいたします。</p> <p>(1)学校教育の理解 ①学校教育の概要 ②学校保健活動</p> <p>(2)保健室の理解・実習 主として保健室を中心に、学校保健や養護教諭の活動について知る。 ①健康観察 ②救急処置 ③保健室経営 ④定期健康診断 ⑤養護教諭執務計画 ⑥健康相談活動 ⑦感染症の予防・対策</p>							
単位認定 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づき実習日誌を総合して評価をする。</p> <p>上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する</p>							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年(前期)				
科目名	教材研究Ⅲ	授業形態	演習	単位数	2 単位				
担当教員	円山昭子	実務経験の有無		○					
実務経験教員の経歴	公立保育園35年6か月の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行								
授業のねらい (到達目標)	自ら調べて保育のポケットの充実を図ると共に、演じ方を習得し現場での実践力をつける 授業で提供される遊びの教材なども確実に使えるようにする								
授業概要	日々の保育で使えるグッズの制作(一人3個以上) 遊びとその導入・使用法の習得(手遊び・遊びうた・集団遊び・遊びに繋げる制作他)使用のタイミング・対象年齢等考えながら創意工夫を加えて保育グッズ作りをし、実演し合っていく								
テキスト	必用に応じプリント配布								
授業計画	第1回	教材研究知識の確認 春の手あそびと、実習に向けて自己紹介ほか作りたいグッズを作る(一人2-3個)							
	第2回	グッズ作りの続き(毎コマ終わりに進み具合をチェック、完成次第提出採点と演じ方確認)							
	第3回								
	第4回								
	第5回								
	↓								
	第6回	出来たグッズの演じ合い(翌週から保育実習2週間)							
	第7回	手袋シアターの制作							
	第8回	手続き							
	第9回	仕上げと演じ方を考える							
	第10回	手袋シアターを演じてみる							
	第11回	物を使ってのあそび・ゲーム・体操など							
	第12回	体を動かすあそびうた・ふれ合いあそび・体操							
	第13回	施設実習準備(自己紹介・あそび・他考えて見本制作・グッズ制作・マジック練習などする)							
	第14回	〃							
	第15回	成果の見せ合い							
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠			
			50%	25%	10%	15%			

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年(後期)				
科目名	教材研究Ⅲ	授業形態	演習	単位数	2 単位				
担当教員	円山昭子	実務経験の有無		○					
実務経験教員の経歴	立保育園35年6か月の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行								
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら調べて保育のポケットを充実させる・実践方法を研究し合い現場での実践力につける ・授業で提供される遊びの教材なども確実に使えるようにする 								
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ○保育のポケットの充実 ・日々の保育で使える保育グッズの制作 ・様々なあそびについての学びを活かし、発展の方法を考えて自分のものにする 								
テキスト									
授業計画	第1回	動くおもちゃ・科学おもちゃの制作とあそび方							
	第2回	〃							
	第3回	自然物を使っての制作							
	第4回	〃							
	第5回	各自作りたいグッズを作りためる(2-3個)							
	第6回	〃							
	第7回	〃							
	第8回	〃							
	第9回	作りためた保育グッズの見せ合いと実演発表							
	第10回	体を動かす系のあそび・ダンス・ゲームを、子どもと遊ぶ時の配慮点を入れながら実演							
	第11回	〃							
	第12回	毛糸関連の制作							
	第13回	〃							
	第14回	冬の手あそびふれ合いあそび							
	第15回	まとめ							
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席			総合評価 算出基準	期末				
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度				中間				
			平常	出欠					
			50%	25%	10%				
					15%				
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する									

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年(前期)			
科目名	リトミック	授業形態	演習	単位数	2 単位			
担当教員	小見 英晴	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭7年 リトミック指導16年							
授業のねらい (到達目標)	「幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格」を取得することをねらいとする。							
授業概要	「幼稚園・保育園のための2級指導資格」を取得することをねらいとし、そのためのリズム、ティーチング、リズムの演奏法を修得する。							
テキスト	「幼稚園、保育園のためのリトミック 3歳児用」「幼稚園、保育園のための4歳児用」「幼稚園、保育園のためのリトミック 5歳児用」							
授業計画	第1回	リトミックについて 楽しいリトミックの経験						
	第2回	楽しいリトミックの経験 強弱・テンポ・空間・アクセント						
	第3回	基礎リズム 基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点						
	第4回	3歳児指導法-1学期 リズムの演奏法(3歳児指導法-1学期)						
	第5回	楽しいリトミックの経験 基礎的な動き						
	第6回	基礎リズム(2拍子) 拍子						
	第7回	3歳児指導法-2学期 リズムの演奏法(3歳児指導法-2学期)						
	第8回	楽しいリトミックの経験 基礎リズム(2拍子)						
	第9回	拍子 ティータイ・ターアイティを含む						
	第10回	3歳児指導法-3学期 リズムの演奏法-3学期						
	第11回	楽しいリトミックの経験 基礎リズム(3・4拍子)						
	第12回	拍子 楽しいリトミックの経験						
	第13回	リズムカノン導入 リズムフレーズ2・3拍子						
	第14回	リズムの演奏法(3歳児指導法-1~3学期) リトミックの理論とダルクルーズについて						
	第15回	2級 資格認定試験						
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年(後期)				
科目名	リトミック	授業形態	演習	単位数	2 単位				
担当教員	小見 英晴	実務経験の有無		○					
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭7年 リトミック指導16年								
授業のねらい (到達目標)	「幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格」を取得することをねらいとする。								
授業概要	「幼稚園・保育園のための2級指導資格」を取得することをねらいとし、そのためのリズム、ティーチング、リズムの演奏法を修得する。								
テキスト	「幼稚園、保育園のためのリトミック 3歳児用」「幼稚園、保育園のための4歳児用」「幼稚園、保育園のためのリトミック 5歳児用」								
授業計画	第1回	リズム ティーチング							
	第2回	リズムの演奏法 理論							
	第3回	4歳児指導法-1学期 4歳児指導法-2学期							
	第4回	楽しいリトミックの経験 リズムカノン3拍子							
	第5回	リズムフレーズ2・3拍子 リズムの演奏法(4歳児指導法-1～2学期)							
	第6回	4歳児指導法-3学期 5歳児指導法-1学期							
	第7回	楽しいリトミックの経験 リズムカノン3・4拍子							
	第8回	複リズム(Ostinatoター) リズムの演奏法(4歳児指導法-3学期)							
	第9回	リズムの演奏法(5歳児指導法-1学期) 5歳児指導法-2学期							
	第10回	5歳児指導法-3学期 楽しいリトミックの経験							
	第11回	リズムカノン3・4拍子 複リズム(Ostinatoター)							
	第12回	リズムの演奏法(5歳児指導法-2～3学期) 楽しいリトミックの経験							
	第13回	リズムカノン3・4拍子 複リズム(Ostinatoター)							
	第14回	リズムカノン3・4拍子 複リズム(Ostinatoター) リトミックの理論とダルクローズについて							
	第15回	1級 資格認定試験							
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する				50%	25%	10%	15%	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年(前期)			
科目名	保育実習指導	授業形態	演習	単位数	2 単位			
担当教員	笠井多佳子	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	公立園での勤務経験から現場に求められる保育者像について実践的な指導を行う。							
授業のねらい (到達目標)	外部実習に向けて準備を充実する ・日誌の書き方、指導案の立て方を確認して考察や「活動」を多方面から考える ・実習の振り返りをして課題や反省点をみつけ次の実習に繋げる。 ・見通しを持ち場面に対応して動く力や相手に伝える力を身につける							
授業概要	・実習に向け、マニュアルやファイル等を使い基本的な事を確認する。 ・振り返りを行い、反省 課題を見つけながら次の実習に繋がるようにする。 ・部分実習指導案、実習日誌など必要な事を個々に合わせて進める。							
テキスト	外部実習マニュアル・パーフェクトガイド(施設実習、保育実習・幼稚園こども園実習)・前年度配布プリント等							
授業計画	第1回	授業内容について説明、自己紹介の準備						
	第2回	保育所実習準備①						
	第3回	保育所実習準備②						
	第4回	保育所実習準備③						
	第5回	保育所実習準備④						
	第6回	保育所実習準備⑤						
	第7回	保育実習の振り返りをする。						
	第8回	施設実習準備①						
	第9回	施設実習準備②						
	第10回	施設実習準備③						
	第11回	施設実習準備④						
	第12回	施設実習準備⑤						
	第13回	施設実習準備⑥						
	第14回	施設実習準備⑦						
	第15回	施設実習準備⑧						
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末			
					中間			
			50%	25%	10%			
					15%			
上記の評価の結果、総合評価算出基準により○認定以上の者を単位認定する								

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年(後期)			
科目名	保育実習指導	授業形態	演習	単位数	2 単位			
担当教員	笠井多佳子	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	公立園での勤務経験から現場に求められる保育者像について実践的な指導を行なう							
授業のねらい (到達目標)	外部実習に向けて準備を充実する ・日誌の書き方、指導案の立て方を確認し、多方面から「活動」を考える。 ・実習の振り返りをその都度行い、課題や反省点を明確にし次の実習に繋げる。 ・見通しをもち、臨機応変に動く力や子ども達の前で演じる(伝える)力を身につける。							
授業概要	・実習に向け、マニュアルやファイル等を使い基本的な事を確認する。 ・振り返りを行い、反省 課題を見つけながら次の実習に繋がるようにする。 ・部分実習指導案、実習日誌など必要な事を個々に合わせて進める。							
テキスト	外部実習マニュアル・パーフェクトガイド(施設実習、保育実習・幼稚園こども園実習)・前年度配布プリント等							
授業計画	第1回	施設実習の振り返りをする						
	第2回	保育実習ⅡⅢの準備①						
	第3回	保育実習ⅡⅢの準備②						
	第4回	保育実習ⅡⅢの準備③						
	第5回	保育実習ⅡⅢの準備④						
	第6回	保育実習ⅡⅢの準備④						
	第7回	保育実習ⅡⅢの振り返りをする						
	第8回	事例検討①						
	第9回	事例検討②						
	第10回	保育実習ⅡⅢ振り返り 事故防止安全対策について①						
	第11回	事故防止安全対策について②						
	第12回	連絡帳の記入について①						
	第13回	連絡帳の記入について②						
	第14回	行事計画について①						
	第15回	行事計画について②						
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する								

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年(前期)			
科目名	音楽IV	授業形態	演習	単位数	2 単位			
担当教員	石川美穂・川内奈央・寺内めぐみ	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者の学生からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスを行っている。							
授業のねらい (到達目標)	盲を間違つ、途中で止まる。弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける							
授業概要	'音楽I」「音楽II」「音楽III」で習得した技術の上に立って、あらためて保育現場における音楽活動に関わる知識と技術を磨く。子供の歌の特徴を理解し、正しく歌う。ピアノの弾き歌い技術をさらに高め、表現の指導法等、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。							
テキスト	'こどものうた50選」「ブルクミュラー25の練習曲」							
授業計画	第1回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第2回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第3回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第4回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第5回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第6回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第7回	中間試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第8回	中間試験						
	第9回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第10回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第11回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第12回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第13回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第14回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第15回	期末試験課題(ソルフェ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
単位認定 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する								

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	通年(後期)			
科目名	音楽IV	授業形態	演習	単位数	2 単位			
担当教員	石川美穂・川内奈央・寺内めぐみ	実務経験の有無	○					
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者の学生からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスを行っている。							
授業のねらい (到達目標)	音を間違つ、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける							
授業概要	「音楽I」「音楽II」「音楽III」で習得した技術の上に立って、あらためて保育現場における音楽活動に関わる知識と技術を磨く。子供の歌の特徴を理解し、正しく歌う。ピアノの弾き歌い技術をさらに高め、表現の指導法等、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。							
テキスト	「ソナチネアルバム1」「幼児の四季 110曲集」「コールユーブンゲン」							
授業計画	第1回	中間試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第8回	中間試験						
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・ソナチネ・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。						
単位認定 評価方法	期末試験の実施	授業時数の2/3以上の出席	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠	
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	3学年	開講期	後期			
科目名	RGS	授業形態	演習	単位数	1 単位			
担当教員	本田 拓也	実務経験の有無	×					
実務経験教員の経歴								
授業のねらい (到達目標)	1. 自分のキャリアにおいて新潟こども医療専門学校に進学した目的、専門分野を選択した理由を明確にし、働くことへの理解を深める。 2. 就職活動で重要な「自己理解」を深めながら今後自分が進みたい方向性について考え、自身のキャリア形成のための基礎的知識を得る。 3. 「社会人基礎力」のうち「前に踏み出す力」の重要性について理解し、就職活動で必要な「態度」(=「主体性と実行力」)を養いつつ、応募関係書類の記入方法や面接対応の準備をする。							
授業概要	「キャリア」とは、将来の職業のことだけを指すのではなく、わたしたちの生き方・人生のことです。学校生活、そして社会に出た後の自分の生き方・人生について、主体的に考え方行動する力を身につけることを目的とします。 このため「社会人基礎力」の中から特に「前に踏み出す力」に焦点をあて、各担当教員が授業を行います。卒業生や在校生の先輩の話も直接聞きながら、「働くことについて学びを深めながら、主体的に人生の選択をし就職活動に取り組む方法や態度を身につけます。							
テキスト	配布のデジタルデータ(PPT／PDF／WORD／EXCEL)							
授業計画	第1回	入学理由から、人生の中での就職活動の位置づけについて(PPT)						
	第2回	前年度の就職活動状況報告(PPT)						
	第3回	多様な働き方(PPT)						
	第4回	契約と労働条件(PPT)						
	第5回	働きすぎと心身の健康(PPT)						
	第6回	働き続けやすさとは(PPT)						
	第7回	就職活動の際の留意点(PPT)						
	第8回	スーツ講座(洋服の青山様による講座)						
	第9回	自己分析の仕方、園研究の仕方						
	第10回	履歴書書き、面接マナーを学ぶ						
	第11回	履歴書書き、面接マナーを学ぶ						
	第12回	履歴書作成						
	第13回	面接練習(立ち居振る舞い)						
	第14回	メイク講座(外部講師による講座)・写真撮影						
	第15回	就職実務研修						
単位認定 ・評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
					50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する								